

## 平成16年度農業農村整備部会企画小委員会の 検討の進め方

平成16年度農業農村整備部会企画小委員会においては、以下の事項についての審議を予定している。

### 1. 検討事項

#### (1) ほ場整備事業の総合評価 (平成15年度から検討)

平成15年3月に決定された「農林水産省政策評価実施計画」に基づき、ほ場整備事業の総合評価を実施。ほ場整備事業及び関連して実施してきたソフト施策の実績を踏まえ、必要性、有効性、効率性の3つの観点から、我が国の水田農業および農村社会への影響等を総合的に評価するとともに、これまでに整備された既存農地ストックの高度利用、国民の共有財産としての美しい農村づくり等の観点から、今後目指すべき方向性等について検討を行う。評価事項及び評価手法を中心に企画小委員会で審議し、総合評価書(案)を平成17年2月を目途にとりまとめる。

#### (2) 農業農村整備事業の事業評価

##### 費用対効果分析手法の改善 (平成16年度から新たに検討)

政策評価制度の導入や事後評価結果を踏まえ、農林水産省としての政策の評価の観点から費用対効果分析手法を改善するため、食料・農業・農村基本法の4つの基本理念に則した効果の算定について検討。

平成17年度まで2カ年で検討し平成18年度から新たな費用対効果分析による評価を実施していく。

##### 総合的な事業評価手法の検討 (平成14年度から検討)

事業の重点化・透明化を推進する観点から、より優先度の高い地区を採択するための総合的な事業評価手法について引き続き検討。

昨年度は、国営かんがい排水事業の事例地区を対象に、点数化した総合評価値を実験的に算出したが、当該手法を直ちに導入するには検討すべき課題が多いことから、現行のチェックリストを多段階評価方式に改善することを優先して検討。

国営事業の事後評価における費用対効果分析（平成14年度から検討）

事後評価の費用対効果分析は、平成15年度から試行的に実施しており、本年度は国営事業の全地区で試行。その試行結果を報告し、算定方式の更なる改善や分かりやすい説明方法等について、引き続き検討。

事業効果の発現に影響する項目の検討（平成16年度から新たに検討）

財務省予算執行調査（平成16年6月）における国営事業の効果発現についての指摘等を踏まえ、事業評価の評価項目として効果の発現に影響する項目（例えば事業費の変動要因）を追加し、事業実施中にその変動を把握・監視する仕組みについて検討。平成17年度より運用する予定。

国が行う補助事業の再評価・事後評価の評価手法の改善（平成15年度から検討）

平成15年度に講じた改善措置と評価結果を報告し、今後の改善方針について検討。

## 2. 検討スケジュール（予定）

事 項	第 1 回 9/30	第 2 回 11月頃	第 3 回 2月頃	備 考
(1)ほ場整備事業の総合評価				総合評価書（案）を農林水産省政策評価会において意見聴取（3月頃）
(2)農業農村整備事業の事業評価				
費用対効果分析手法の改善				平成17年度も引き続き検討 平成18年度から新たな費用対効果分析手法を適用
総合的な事業評価手法の検討				国・機構営事業の事前評価手法を今年度中に見直し（平成18年度新規着工要求地区から適用）
国営事業の事後評価における費用対効果分析				今年度中に算定に当たっての留意点等を取りまとめ
事業効果の発現に影響する項目の検討				年度内に要領等策定（平成18年度新規着工要求地区から適用）
国が行う補助事業の再評価・事後評価の評価手法の改善				今年度中に改善方針を取りまとめ